

加盟（準加盟及び協力）団体代表者 殿
公認スポーツ指導者資格協同認定団体 代表者 殿
都道府県スポーツ少年団本部長 殿

公益財団法人 日本スポーツ協会
会長 伊藤 雅 俊



「スポーツを愛するすべての人へ」メッセージの発信について
(スポーツの現場において発生した事案を受けての日本スポーツ協会
会長メッセージ)

平素より本会スポーツ推進事業に対し、格別のご理解とご協力を賜り、深くお礼申し上げます。

さて、スポーツ界における暴力行為等の反倫理的行為については、平成 25(2013)年 4 月 25 日に、本会、日本オリンピック委員会、日本障がい者スポーツ協会、全国高等学校体育連盟、日本中学校体育連盟の 5 者で「スポーツ界における暴力行為根絶宣言」を採択して以来、関係団体・関係各位のご協力により、根絶に向けた機運が醸成されてきておりますことを、あらためて感謝申し上げます。

機運が醸成されてきている一方で、本会設置の相談窓口への相談件数は増加傾向にあるほか、スポーツ指導者の不適切な指導、ドーピング、スポーツ団体のガバナンス低下などが発生するなど、根絶に向けた取組をさらに充実させることが必要であると痛感しております。

このような状況に鑑み、あらためて本会の考えをメッセージとして発信することとし、別添資料のとおり取りまとめました。

つきましては、各団体におかれましても、本メッセージを関係団体・組織に共有いただくほか、ホームページ・SNS への掲載、各種講習会や研修会等のイベントにおける配布など、周知に格別のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、スポーツの現場から反倫理的行為を根絶するためには、すべてのスポーツ関係団体が一致協力し絶え間ない取組を進めていく必要があります、各団体におかれましても、取組のさらなる活性化をお願い申し上げます。

<同封資料>

- ・スポーツを愛するすべての人へ<日本スポーツ協会会長メッセージ>
- ・スポーツを愛するすべての人へ<日本スポーツ協会会長メッセージ>【概要版】

【本件に係るお問合せ先】
公益財団法人 日本スポーツ協会
スポーツ指導者育成部
栗原、石黒

TEL : 03-3481-2226



スポーツを愛するすべての人へ ＜日本スポーツ協会会長メッセージ＞

1911年に創立された日本体育協会（当時、大日本体育協会）は、2018年4月1日、「スポーツと、望む未来へ。」のコーポレート・メッセージのもと「日本スポーツ協会」として新たな一步を踏み出しました。

本会では、スポーツは「自発的な運動の楽しみを基調とする人類共通の文化」と考えていますが、残念ながら、昨今のスポーツ界において発生した事案（ドーピング、加盟スポーツ団体のガバナンス低下、スポーツ指導者（監督・コーチ）による不適切な指導など）により、文化としてのスポーツの価値が脅かされています。

本会は、今後もスポーツの意義と価値を高めるとともに、スポーツがあらゆる人々に一切の差別、格差なく享受され、誰もが望む社会を実現するため、スポーツを愛するすべての人へメッセージを送ることとしました。

スポーツの「場」は、多くの人々によって支えられています。スポーツを楽しむプレーヤーはもとより、プレーヤーを導き支えるスポーツ指導者、プレーヤーを取り巻くすべての関係者（以下、アントラージュ¹）、それらをサポートするスポーツ団体や組織があります。

より良いスポーツの「場」を創るため、それぞれがスポーツの意義と価値を認め、常に品位と名誉を重んじ、スポーツの競技規則、スポーツマンシップやフェアプレーなどのスポーツ規範に基づき、生涯を通じ自己の能力・適性等に応じて、自らが主体的にスポーツの楽しさや喜びを味わうことが重要であると、考えています。

これらスポーツを愛するすべての人が「場」を形成する当事者として役割を分担しながら、最適なスポーツの「場」を創っていくために行動しましょう。

＜プレーヤーの皆さんへ＞

【スポーツを心から楽しむ】

スポーツは、自発的な運動の楽しみを基調とする人類共通の文化です。「楽しい」「大好き」という気持ちがスポーツを続ける原動力であり、一人ひとりが主役として、みんなが楽しむことができるスポーツの「場」をつくりましょう。

【互いに尊重し合う】

スポーツの「場」を形成するすべての人が大切な自分の時間を使っています。それぞれの役割は違いますが、一人の人間としては対等で、尊重されるべき人格があり、ものの見方や考え方も多様です。相手を受け容れ、互いに尊敬や感謝の気持ちを忘れないようにしましょう。

【自ら問いを立てる】

常に自分の思考や行動について問いを立て、答えを求め、考える習慣を身に付けましょう。

＜スポーツ指導者の皆さんへ＞

【プレーヤーズセンタード²】

スポーツの主役はプレーヤーです。スポーツ指導者は、プレーヤーが望むスポーツ活動を理解しながら、プレーヤーの成長を促す役割を担っています。スポーツ指導者自身の考えを一方的にプレーヤーに伝えるのではなく、気づきを促し、成長に導いていくコーチングを目指しましょう。

スポーツの特徴には「勝敗」があります。勝利することにより喜びを得て、さらなる成長を目指すモチベーションの向上にもつながります。

¹ 保護者、アスレティックトレーナー、スポーツドクター、マネジャー、審判員、メディア等のプレーヤーと関わりを持つすべての人々。

² プレーヤーを取り巻くアントラージュ自身も、それぞれの Well-being（良好・幸福な状態）を目指しながら、プレーヤーをサポートしていくという考え方。

しかしながら、「勝利」という結果がすべてではありません。全員が勝者になることはなく、敗れることも経験します。また、勝利を目的としない、勝敗を第一としない楽しみ方も広がっています。勝利を目指して努力する姿勢は大切ですが、結果にかかわらず相手に敬意を持つことや、未来に向けて何を考えるかをプレーヤーやアントラージュに伝えましょう。

さらに、アントラージュとのコミュニケーションも重要な役割の一つです。プレーヤーがスポーツを楽しむ環境を整えるため、すべての関係者と良好な関係を築きましょう。

【学び続ける】

プレーヤーが望むスポーツ活動を理解しながら、プレーヤーに気づきを促し、成長に導くためには、的確にアドバイスができる知識・技能が求められます。日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の取得をはじめとして、常にコーチングに関する最新の情報を手に入れ、学び続けていきましょう。

また、同じ志をもつ仲間を増やし、他者からも学ぶ姿勢をもって、互いに協力し、自身のコーチングを振り返る時間を設けましょう。

【ワークライフバランス】

プレーヤーと同様、スポーツ指導者にも自身の生活、ライフプランがあります。プレーヤーに対して情熱を傾けつつも、自身の幸福の追求や家族・関係者のライフプランの充実も念頭に置きながらコーチングに携わりましょう。

<アントラージュの皆さんへ>

【良き理解者となる】

プレーヤーの目標達成には、自身の努力、スポーツ指導者の導きや支えに加え、アントラージュの役割が大変重要になります。プレーヤーが望むスポーツ活動を理解し、その成長を見守り促すため、良き理解者となるように心がけましょう。

練習によってできなかったことができるようになるなど、「達成感」や「有能感」が得られることも、スポーツの持つ大きな価値の一つです。

一方、努力の成果が必ず花開くものでもありません。勝利を目指し努力することは大変重要ですが、「勝利」という結果がすべてではありません。プレーヤーは、スポーツを自ら楽しみ、目標達成を目指す過程の中で、スポーツマンシップやフェアプレーなどのスポーツ規範を学び、倫理観や他者を信頼すること、他者に貢献することなどを身に付けることができ「人」としても成長します。アントラージュは、このような視点をもちつつ、互いに協力しあってプレーヤーの成長をサポートしましょう。

<スポーツ団体・組織の皆さんへ>

【スポーツを愛する人を増やす】

スポーツは、「する」「みる」「ささえる」といった多様な楽しみ方があります。一人でも多くの方がスポーツを生活の中に置いて、生涯を通じて、長く楽しめる環境を整えていきましょう。

【反倫理的行為を根絶する】

スポーツは、自発的な運動の楽しみを基調とする人類共通の文化です。本会は、スポーツの「場」での、暴力行為、暴言、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、ドーピングなどの反倫理的行為の発生や、それらの行為が黙認されることにより、スポーツを敬遠する人が増えるなど、スポーツの価値が低下することを懸念しています。

このことを私たちは再認識し、スポーツの「場」から反倫理的行為を根絶し、団体・組織の経営・運営が、公明正大なものとなるよう共に不断の努力を続けていきましょう。

平成30年7月18日

公益財団法人日本スポーツ協会

会長 伊藤雅彦

メッセージを補足する参考資料

資料名	URL	説明
スポーツ宣言日本 ＜日本スポーツ協会、日本 オリンピック委員会＞	http://www.japan-sports.or.jp/about/tabid994.html	2011年に日本スポーツ協会（当時、日本体育協会）と日本オリンピック委員会が創立100周年を迎えた際に採択した宣言。スポーツの意義と価値、21世紀におけるスポーツの使命を明らかにしたものです。
フェアプレイで日本を元 気に ＜日本スポーツ協会＞	http://www.japan-sports.or.jp/portals/0/data/0/fair/	2011年から日本スポーツ協会が実施しているキャンペーン。フェアプレーの行動と精神を理解した「フェアプレイ宣言者」100万人を目指しています。
新しい時代にふさわしい コーチングの確立に向け て～グッドコーチに向け た「7つの提言」～ ＜コーチング推進コンソ ーシアム＞	http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/27/03/1355873.htm	コーチング環境の改善・充実に向けた連携した取組を推進するために2014年に設置された「コーチング推進コンソーシアム」が、2015年に発表したコーチングを正しい方向へと導くために取りまとめた提言。
スポーツ界における暴力 行為等根絶宣言	http://www.japan-sports.or.jp/about/tabid931.html	2013年に日本スポーツ協会（当時、日本体育協会）、日本オリンピック委員会、日本障がい者スポーツ協会、全国高等学校体育連盟、日本中学校体育連盟の5者が共同で採択した宣言。日本スポーツ界から暴力行為等の反倫理的行為を根絶するという決意を示しています。
スポーツ指導者のための 倫理ガイドライン ＜日本スポーツ協会＞	http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/katsudousuishin/doc/rinriguidelines.pdf	「スポーツの価値」「プレーヤーズファースト」「フェアプレー」の視点から、安全で、正しく、楽しいスポーツ活動をサポートするためのプレーヤーとスポーツ指導者の望ましい関係づくりについて解説しています。
子どもの権利条約（児童の 権利に関する条約） ＜日本ユニセフ協会＞	https://www.unicef.or.jp/kodomo/kenri/syoi-8.htm	世界中のすべての子どもたちがもっている“権利”について定めた条約です。
アスリートのアントラ ージュ（取り巻く関係者）が 大切にしたいこと ＜日本オリンピック委員 会＞	https://www.joc.or.jp/about/entourage/pdf/athlete_entourage.pdf	プレーヤーが最大限のパフォーマンスを発揮できるよう連携協力すべきことについて記されています。
トラブルのないスポーツ 団体運営のために ガバ ナンスガイドブック ＜日本スポーツ仲裁機構 ＞	http://www.jsaa.jp/guide/governance/governance.pdf	トラブルのないスポーツ団体運営のために、ガバナンスについての理解を促します。

スポーツを愛するすべての人へ

<日本スポーツ協会会長メッセージ>



スポーツ指導者の皆さんへ

【プレーヤーズセンタード】

スポーツの主役はプレーヤーです。スポーツ指導者自身の考えを一方向的にプレーヤーに伝えるのではなく、気づきを促し、成長に導いていくコーチングを目指しましょう。

【学び続ける】

プレーヤーに気づきを促し成長に導くため、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の取得をはじめ、常にコーチングに関する最新の情報を手に入れ、学び続けましょう。

【ワークライフバランス】

スポーツ指導者自身の生活の充実・幸福の追求と併せ、家族・関係者のライフプランの充実も念頭に置きましょう。



プレーヤーの皆さんへ

【スポーツを心から楽しむ】

「楽しい」「大好き」という気持ちが、スポーツを続ける原動力であり、一人ひとりが主役として、みんなが楽しむことができるスポーツの「場」をつくりましょう。

【互いに尊重し合う】

プレーヤー、仲間、スポーツ指導者、アントラージュは、役割は違いますが、一人の人間としては対等で、尊重されるべき人格があります。

相手を受け容れ、互いに尊敬や感謝の気持ちを忘れないようにしましょう。

【自ら問いを立てる】

常に自分の思考や行動について問いを立て、答えを求め、考える習慣を身に付けましょう。



アントラージュの皆さんへ

【良き理解者となる】

プレーヤーが望むスポーツ活動を理解し、その成長を見守り促すために、良き理解者となるよう心がけましょう。

プレーヤーは、スポーツを自ら楽しみ、目標達成を目指す過程の中で、フェアプレーや倫理観、他者を信頼すること、他者に貢献することなどを身に付けることができ「人」としても成長します。

このような視点をもちつつ、互いに協力しあってプレーヤーの成長をサポートしましょう。

スポーツ団体・組織の皆さんへ

【スポーツを愛する人を増やす】

スポーツは、「する」、「みる」、「ささえる」といった多様な楽しみ方があります。一人でも多くの人々がスポーツを生活の中に置いて、生涯を通じて、長く楽しめるような環境を整えていきましょう。

【反倫理的行為を根絶する】

日本スポーツ協会は、スポーツの「場」で、暴力行為、暴言、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、ドーピングなどの反倫理的行為の発生や、それらの行為が黙認されることにより、スポーツを敬遠する人が増えるなど、スポーツの価値が低下することを懸念しています。

このことを私たちは再認識し、スポーツの「場」から反倫理的行為を根絶し、団体・組織の経営・運営が、公明正大なものとなるよう共に不断の努力を続けていきましょう。